

## 会社の現況

### 1. 事業概況

令和5年度の我が国は、新型コロナウイルス感染症の影響も少しずつ緩和し、社会・経済活動の正常化が進みつつある中、エネルギー価格の高騰や為替相場の円安傾向などから物価の上昇が続き、市民生活や企業活動などに大きな影響が生じました。

そのような中でも、冷蔵倉庫は重要な社会インフラとして安定した保管機能を維持することが求められております。当社は川崎北部市場の冷蔵・冷凍保管機能を担い市場で取引される食料品の流通を支え、市民の皆様へ食の安全・安心を確実に提供できるよう努めてまいりました。

当社といたしましては、厳しい経営環境の状況下にあっても、収入面においては市場内事業者及び市場外事業者への営業活動をすることで売上の維持、向上を図り、支出面においては動力費ほか経費の抑制に努めるなど、経常利益の確保を図ってまいりました。

結果、今期の売上は保管料と凍氷販売を合わせた売上総額は356,706千円（前期比98.5%）となり5,541千円の減収となりました。

一方、支出につきましては支出総額で、348,026千円（前期比99.6%）となり、1,483千円の減少となりました。

その結果、今期の営業利益は8,680千円（前期比68.1%）、経常利益は11,174千円（前期比79.4%）、当期純利益は12,290千円（前期比88.4%）となりました。

今後も市場内事業者をはじめとする関係事業者の商品を適切な管理のもとでお預かりし、安定した経営を確保するよう努めてまいります。

#### （1）冷蔵保管部門

容積建保管の売上は196,770千円で前期比97.1%となりました。一般保管に関しては冷凍品・冷蔵品を合わせた売上高が146,076千円で前期比98.1%となりました。

#### （2）凍氷部門

販売数量は631トン（前期比122.6%）で売上高13,860千円（前期比129.0%）となりました。

### (3) 両部門合計

売上高合計は、356,706 千円（前期比 98.5%）となり、5,541 千円の減収となりました。

## 2. 冷蔵設備状況及び製氷日産能力

冷蔵庫	新1号棟	1,060 屯	
	2号棟	4,350 屯	(内超低温 1,294.6 屯)
	3号棟	10,674 屯	(内超低温 268.0 屯)
	合計	16,084 屯	(内超低温 1,562.6 屯)

凍氷 製氷日産能力 1日当たり 20 屯

## 3. 課題

当面の課題として、老朽化が進む施設・設備の保守管理、修繕等による冷蔵冷凍機能の保全、品質維持を前提とした可能な範囲内での動力費の抑制、人材の確保・育成に向けた取り組みの継続、収支の改善などがございます。

また、中長期的な課題として、川崎市中央卸売市場北部市場機能更新に係る基本計画に基づき実施される施設の機能更新等について、開設者や市場内事業者と連携して取り組むことなどがございます。

以上の課題をしっかりと意識した運営を行うことで会社経営の安定化に努めてまいります。

## 4. 財産及び損益の推移

今期末における総資産は 344,144 千円で前期末に比べ 57,228 千円減少しました。また、純資産については 76,607 千円で前期末に比べて 12,290 千円増加しました。

損益状況では、当期純利益は 12,290 千円となり、その結果、繰越損失は前期よりも 12,290 千円減少し 123,393 千円となりました。

また、借入金については借入金総額 1,650,000 千円に対し、今期の返済額は 49,200 千円で、期末借入金残高は 12,300 千円となっています。